

教育実習におけるピアノ課題の調査

— 実習事後アンケートを通して —

A survey of a required piece for the piano in practical training

— Through questionnaires after training —

川田 将人 中 沢 充 恵 岡 泉 志のぶ

KAWADA Masato ※¹ NAKAZAWA Mitsue ※² OKAIZUMI Shinobu ※³

Abstract:

This research aims to analyze and carry out a comparative study based on the research conducted in "Research of the task songs requested from kindergartens (songs of life)" (previous research from 2013).

As a result, there was no significant difference in the level of performance of "life songs", but from the analysis of all of the songs: "daily (life) songs", "seasonal songs", "seasonal event celebration songs" we clarified the musical aspects (rhythm, tonality, etc.) of the songs that were often played during teaching practicum lessons. Additionally, we considered the teaching contents that should be focused in the piano lessons leading up to the teaching practicum in the second year of study at our university.

キーワード:

保育士養成、教員養成、教育実習、ピアノ課題曲、ピアノ指導法

1. はじめに

本学の保育士養成課程、教員養成(幼稚園)における実習は、1年次が11月の教育実習(観察)5日間と2月の保育実習Ⅰ(保育所)11日間であり、2年次には6月に15日間の教育実習(総合)、夏季休業期間の保育実習Ⅱ・Ⅲ(選択にて保育所、または施設)と保育実習Ⅰ(施設)が各11日間配置されている。特に、教育実習と保育実習(保育所)では、保育活動の実践としてピアノ伴奏や弾き歌いが求められていることから、1年次のピアノ個人レッスンにも幼児曲を取り入れ、クラス演習では弾き歌いの演習を学習し、11月の実習に臨ませている。2年次

には「幼児曲演習」の授業でより実践的に実習園の課題曲対策を行っている。

これまで、拙論(石塚・岡泉2013)の本学の先行研究によって、幼稚園から渡されたピアノ課題曲において不安を抱えたまま実習に臨む学生が少なからずいることが明らかになっていることから、授業内容の見直しをして取り組んできた。しかし、未だ授業内での一人あたりのレッスン時間が限られていることと、実習先によって扱う課題曲数が大きく異なることで未だ多くの学生に不安があることが考えられる。また、「生活のうた」等における表題の相違(おはようのうた、朝のうた)があることも明ら

※¹ 佐野日本大学短期大学 総合キャリア教育学科
※² 佐野日本大学短期大学 総合キャリア教育学科
※³ 佐野日本大学短期大学 総合キャリア教育学科

Sano Nihon University College Senior Lecturer
Sano Nihon University College Lecturer (part-time)
Sano Nihon University College Associate Professor

かになっており、それを詳しく調査して学生に理解してもらう必要があるのではないかと考えた。

そこで本研究は、今年度のこどもフィールド2年次における教育実習での課題曲事後アンケートを基に、各園から渡された課題曲と実際に演奏した課題曲に着目し、比較研究することとした。その結果を基に各園から求められている課題に1年次の早い段階からの取り組みに役立て、一人ひとりの学習過程や目標への到達を目指していきたいと考える。更に、先行研究から変化している課題曲や「生活のうた」「季節のうた」以外にも歌われている楽曲の傾向についても分析し、課題曲と実際に実習で弾いた曲にも相違があることから、その上で園から求められている課題を詳細に把握し、それに応じた教授法やピアノの練習の効果を最大化するための方策を見出すことを目的とする。

II. 調査方法

1. 調査協力者

本学総合キャリア教育学科こどもフィールド（保育士養成課程）2年生の「幼児曲演習」履修者64名に協力していただき、事前に研究の目的、方法、実習園への影響は一切ないことを全体に説明して承諾を得た。

2. 調査方法・時期

調査は、実習後の7月にアンケート調査を実施し、聞き取りが必要な学生には集計後の11月から12月にインタビュー調査を行った。

アンケート調査は、本学に導入されている授業支援システム「C-learning」のアンケート機能を通して「教育実習調査」に回答してもらった。アンケートの設問内容は以下の通りである。

設問1：実習園の地域を選択してください

（栃木県内17の地域と群馬・埼玉・茨城・福島、計21の地域から選択）

設問2：実習園名

設問3：担当児童の年齢

設問4：実習前に園から提示された曲を記入してください

設問5：実習中に演奏した曲を全て記入してください

※何歳児のクラスで演奏したか、正確に記入してください。

アンケート調査時、上記の設問5で「どのような場面で演奏したか」より詳しく記入していただくよう口頭でお願いした。また、前途の通り、使用する楽譜によっては同じ作品でも表記名が異なるものや、同じ作品名でも違う作詞者・作曲者のものがとりわけ日常のうたに多く存在するため、アンケートの記入結果から詳細が判明しない場合に限り回答者に聞き取りによるインタビュー調査をする必要があることを踏まえ、記名式とさせていただいた。その際、学生にはこのアンケートはあくまで研究目的であり、成績には影響しないことを重ねて伝えた。

「なお、本研究は、令和3年度佐野日本大学短期大学研究倫理審査委員会の承認を得て進められた（承認番号第21041号）。」

III. 調査結果・考察

1. 調査結果

アンケート結果として使用楽譜や楽曲名の認識の違いから、記載方法にいくつかの相違が見られたため、個々のインタビュー調査において楽曲を明確化する必要があった。その内容は以下の通りである。

① 益子とし・本多鉄磨による「おはよう」は本学で教科書として使用している「改

訂 幼児のための音楽表現」(教育芸術社)の記載名に合わせて「朝のうた」としてまとめた。

- ②「おはようのうた」は異なる作詞・作曲家による楽曲があることから、個々に聞き取り調査を行い明確化した。本アンケートで記載があった「おはようのうた」は次の3曲である。

「おはようのうた (渡辺茂)」

「おはようのうた (河村光陽)」

「おはようのうた (本多鉄磨)」

- ③ 活動の切り替え時のクールダウンに日常的に使用される「おねむり」として「シューベルトの子守唄」「こもりうた(團伊玖磨)」「ゆりかごのうた」「きらきらぼし」をはじめとする楽曲は、聞き取り調査によって使用用途が明確にできたものに関して「楽曲名(おねむり)」として、生活のうたにカウントした。またその反対に、元のアンケートで学生が「おねむり」とのみ記載していたものに関して聞き取り調査によって可能な限り楽曲名を判明させた。一方で課題として提示されていたが実際には演奏機会がなかったものや、聞き取りが出来ず、使用用途が分からなかったものは楽曲名のまま記載することとした。

2. 考察

(1) 生活のうた

「生活のうた」における実習前・実習後比較において最も印象的だったのは「朝のうた」と「おかえりのうた」における実習前課題と実際に弾いた数の相違である。「おかえりのうた」は実習前の課題として受け取っていた学生が25名だったのに対し、実際には36名の学生が演奏機会をもっており、「朝のうた」に関して実習前課題として受け取った学生が15名だったのに対し実際に演奏をしたのは25名と大幅に増えてい

る。これは原・西出による、「生活の歌」から「朝のうた」「おべんとう」「おかえりのうた」は必ず弾けるようにしている。この3曲は弾けることが前提条件であり、あえて訪問時には提示されないこともある。¹⁾とあるように、定番曲であるために、わざわざ前もって提示されていない、と考えることが出来る。実際にこれら3曲は「生活のうた」演奏機会上位を占めており、早い段階からの取り組みは必須と言える。とりわけ注意が必要なのが増子・本多による「朝のうた」である。この楽曲はもともと「おはよう」として出版されており、現役幼稚園教諭の中にも「おはよう」として認識している者も多く存在する。前出にもある通り本研究においては本学で使用している「改訂 幼児のための音楽表現」(教育芸術社)にあわせて、聞き取り調査で確認の上、同一曲は「朝のうた」に統一させていただいているが、元のアンケートには「おはよう」と記載していた学生も多くみられた。定番曲であるためにわざわざ楽譜等は頂かず、曲名のみを伝えられるケースも多いと考えられるため、「おはようのうた」など類似した曲名の楽曲と間違わないよう、学生自身が楽曲を正確に認識できるようにしなければならない。

上記3曲に続いて多かった「おきよおきよ」は落ち着かせた状態の「おねむり」から切り替えの時に弾かれる「ちょうちょ」の一部を使用した替え歌であるが、実際の演奏機会17に比べて実習前に提示された学生は3名であった。殆どの場合、ハ長調の「ちょうちょ」に多少の変化を加えたものであり、学生は現場ですぐに対応できているが、その目的や前段階の「おねむり」との連続性も含めてその用途と目的を良く理解することが大切である。その「おねむり」としての使用楽曲は「シューベルトの子守唄」が最も多く、続いて「きらきら星」、團

伊玖磨による「こもりうた」、他、という結果となった。

また、同名異曲の多い「おはようのうた」においては先行研究による研究結果同様、渡辺茂によるものが殆どであった。最低音

D4、最高音 A4 かつ順次進行の多い楽曲になっており、河村光陽による跳躍進行のモチーフで最低音 C4、最高音 D3 のものと比べて音域が狭く、年齢に関係なく歌いやすい事が理由と考えられる。

表1：実習前課題と実施数比較 生活のうた

実習前課題曲		実際に弾いた曲	
おべんとう	26	おかえりのうた	36
おかえりのうた	25	おべんとう	26
あさのうた	15	あさのうた	25
はをみがきましょう	10	おきよおきよ (ちょうちょ一部)	17
おはようのうた (渡辺茂)	8	さよならのうた	10
さよならのうた	8	シューベルトの子守唄 (おねむり)	10
シューベルトの子守唄 (おねむり)	6	おはようのうた (渡辺茂)	8
おかたづけ	3	はをみがきましょう	8
おきよおきよ (ちょうちょ一部)	3	おかたづけ	6
おててをあらいましょう	3	きらきら星 (おねむり)	5
おむねをはりましょ	3	おててをあらいましょう	3
ゆりかごのうた (おねむり)	3	おとうばん	3
おとうばん	2	おべんとうのうた	3
おべんとうのうた	2	ののさまに	3
こもりうた/團伊玖磨 (おねむり)	2	ゆりかごのうた (おねむり)	3
ののさまに	2	いまささぐ	2
ゆりかごのうた (おねむり)	2	おいのり	2
よがあげた	2	おむねをはりましょ	2
愛をください	1	よいこのあいさつ	2
あくしゅでこんにちは	1	あくしゅでこんにちは	1
朝が来た	1	あさですおはようございます	1
あさですおはようございます	1	朝のお祈り	1
朝のお祈り	1	朝の会の歌	1
いまささぐ	1	お当番さん (ちょうちょ)	1
うつくしいあさも	1	おとうばんのうた	1
おいのり	1	おはじまり	1
おとうばんのうた	1	おはようのうた (河村光陽)	1
おはよう	1	おはようのうた (本多鉄磨)	1
おはようのうた (河村光陽)	1	おやつのうた	1
おはようのうた (本多鉄磨)	1	帰りのお祈り	1
帰りのお祈り	1	このままのすがたで	1
このままのすがたで	1	こもりうた/團伊玖磨 (おねむり)	1
食前のお祈り	1	自由曲 (おねむり)	1
小さいおてて	1	食前のお祈り	1
てんのおとうさま	1	だしてひっこめて	1
のんののののさま	1	小さいおてて	1
はみがき	1	てんのおとうさま	1
みぎてひだりて	1	のんののののさま	1
ゆりかご	1	はみがき	1
よいこのあいさつ	1	みぎてひだりて	1
		ゆりかご	1
		よがあげた	1

(2) 季節のうた

6月の実習でもあり、「かえるのうた」と「かたつむり」は幅広い年齢で楽しむことができ、学生にとっても容易に演奏ができるという点で演奏機会が多くなった理由と考えられる。それら2曲に次いで多かった「あめふりくまのこ」はかわいらしいストーリーと美しい音楽で、学生からの人気も非常に高い作品であるが、一方で前奏・間奏におけるメロディの跳躍や音域の広い流動的な伴奏音型から難しいと感じている学生も少なくない。本学のピアノ授業では学生の技術に応じてコードによる簡易演奏法も指導しているが、とりわけ「あめふりくまのこ」に関しては、学生も原作の美しさを残して演奏したいと考えている者も多く、コード演奏指導時はⅡ・Ⅲ・Ⅵといった副三和音も原曲通り使用し、簡素な響きにならないよう、かつ個々の学生の持つ技術とのバランスをとりながら指導している。

また、実習期間の6月は父の日、時の記念日があるため「すてきなパパ」「とけいの

うた」「大きな古時計」なども比較的良好に歌われていたことが分かった。

(3) 生活のうたと季節のうた以外のうた

突出して「むすんでひらいて」が11人で、季節を問わず多くの園で歌われていた。単純明快なメロディーで昔から好まれて歌われている文部省唱歌でもあり、歌詞のとおり手遊びを付けて歌うことや替え歌をして子ども達を楽しませることができる。また、伴奏がハ長調の主要3和音のみを使用し比較的容易に演奏できることも理由の一つと考えられるだろう。同様に「手をたたきましょう」と「ごんべさんのあかちゃん」が2名だったのも子ども達が覚えやすく、歌いながら体を動かすことのできる慣れ親しんだ楽曲であるのではないかと思われる。実習前課題曲として受け取っていない「山の音楽家」が2番目に多い楽曲だった理由として、本学が教科書として使用している「幼児のための音楽表現」(教育芸術社)の6月教材の中にこの楽曲が掲げられていて、

表2：実習前課題と実施数比較 季節のうた

実習前課題曲		実際に弾いた曲	
かたつむり	11	かたつむり	25
あめふりくまのこ	9	かえるの合唱	24
とけいのうた	9	あめふりくまのこ	17
すてきなパパ	5	とけいのうた	15
あまだれポタン	4	すてきなパパ	8
大きな古時計	4	あまだれポタン	4
かえるの合唱	4	大きな古時計	4
おたまじゃくし	2	シャボン玉	4
しゃぼんだま	2	にじ ^{注1)}	3
たなばたさま	2	おばけなんてないさ	2
にじ ^{注1)}	2	アイスクリームのうた	1
おとうさん	1	あめちょこさん	1
あめちょこさんのうた	1	おとうさん	1
いっぴきかえる	1	たなばたさま	1
おつかいありさん	1	ながぐつマーチ	1
ながぐつマーチ	1	にじのむこうに ^{注1)}	1
にじのむこうに ^{注1)}	1	夕立	1
はみがき	1		

授業内で指導を受け演奏することができる学生が多くいる。これを自由曲として演奏する機会があったのではないかと考えられる。また、歌詞の中にいろいろな楽器の音が表現されていて、強弱の変化を子ども達に体得させられる楽曲の1つではないか。

「ミッキーマウスマーチ」と「ぼくのミックスジュース」が2名、次いで「ハイホー」「夢をかなえてドラえもん」を演奏していることが判明したが、それらの楽曲は昔から歌い継がれている童謡には少ない「ぴよんこリズム」やシンコペーションの多用など、リズムカルな跳躍を含む高度な演奏技術が必要とされる。実習前に課題曲として提示されているのは「ミッキーマウスマーチ」であるが、比較的上級者が前もって授業内で指導を受けることにより、実習現場できちんと演奏してきていることが分かっている。一方、学生のレベルに関係なく、高度

な楽曲が課題として渡されているということでもあり、前出のコードによる簡易伴奏の指導を強化する必要があるのではないかと考える。学生への聞き取り調査によれば、これらの楽曲は椅子取りゲームなどの遊びをする時の音楽としても使われており、子ども向けテレビ番組等で耳にしたり、アニメソングでもあることから、親しみやすく、音楽を通して子ども達の活動を活発にさせる「ねらい」があると考えられる。

IV. まとめ

「生活のうた」に関していえば、先行研究とそれほど変わっておらず、これまでの指導を継続していけることが確認できた。また、引き続き実習園からいただいた楽譜等を参考に正確な情報を精査し、実習前指導と個々の対応をしていく事になる。こどものうた、とりわけ生活のうたに頻出する

表3：実習前課題と実施数比較 生活のうたと季節のうた以外のうた

実習前課題曲		実際に弾いた曲	
きらきらぼし	2	むすんでひらいて	11
園歌	2	山の音楽家	5
おかあさん	1	さんぽ	4
おさかな天国	1	きらきらぼし	3
おたんじょうびおめでとう	1	おばけなんてないさ	2
おはながわらった	1	ごんべさんのあかちゃん	2
カレンダーマーチ	1	すうじのうた	2
ことりのうた	1	手をたたきましよう	2
すうじのうた	1	ぼくのミックスジュース	2
どんな色がすき	1	ミッキーマウスマーチ	2
ふるさと	1	犬のおまわりさん	1
ぼくのミックスジュース	1	おはながわらった	1
ミッキーマウスマーチ	1	手のひらを太陽に	1
むすんでひらいて	1	ドレミの歌	1
森のくまさん	1	どろんこと太陽	1
		どんな色がすき	1
		ハイホー	1
		バスごっこ	1
		春が来た	1
		みつばちマーチ	1
		夢をかなえてドラえもん	1

“びよんこリズム”や主要3和音の奏法を個々の習熟度に関わらず、全ての学生が一年次に習得できていることが望ましいと考えられる。特に、渡辺茂作曲の「おはようのうた」や「あめふりくまのこ」「とけいのうた」といった定番曲がニ長調の楽曲であり、子どもの声の音域や音程に適した調性を理解することから、早い段階でニ長調の調性に慣れることが重要であると考えられる。

本学1年次の「ピアノ演奏法Ⅰ・Ⅱ」では、ピアノ演奏の基盤づくりを目的にバイエル教則本を中心に使用しつつ、「あさのうた」「おかえりのうた」「おべんとう」の頻出上位3曲を習得するよう授業計画を立てているが、バイエル教則本中（～100番まで）のニ長調の楽曲といえば75番、80番、81番（中間部）のみであり、「こどものうた」への導入学習として有効なホモフォニックな作品は80番と81番である。しかし、主要3和音が出てこないことから、この2曲以外にもニ長調の学習に効率的な楽曲を指導し、限られたレッスンの時間で、初心者の学生も不安を抱かず実習に臨めるよう、楽曲の詳細や技術の習得に向けた指導法を更に充実していきたいと考える。

謝辞

本研究にあたり、調査にご協力いただきました学生に、心より御礼申し上げます。

注記

注)「にじ」「にじのむこうに」2曲に関しては通年歌われる愛唱歌ではあるが、6月の教育実習後の調査でもあり、本研究においては6月に因んだうたとして「季節のうた」に分類した。

引用文献

1) 原友美 西出悦子 (2019) 保育者養成校における歌唱教材の内容とその指導方

法—幼稚園教育実習からみた音楽系授業の必要性—瀬木学園紀要 第14号 pp.45—54

参考文献

- 石塚将之 岡泉志のぶ (2013) 幼稚園実習におけるピアノ課題曲（生活の歌）資料：栃木県下の私立幼稚園を中心に 佐野短期大学研究紀要 第24号 pp.69—79
- 多田純一 (2020) 幼稚園教諭に求められるピアノ弾き歌い技術とその指導法に関する一考察 —幼稚園実習第2段階における課題を分析して— 奈良佐保短期大学研究紀要 第27号 pp.31—39
- 岸久美子 (2018) 実習における音楽活動について (2) 実習事後アンケート報告『生活の歌』について 小田原短期大学研究紀要 第48号 pp.274—278
- 神原雅之 鈴木恵津子 石井恵子 上野彩子 鎌形由貴乃 川村祥子 岸久美子 木許隆 鈴木由美子 竹内アンナ 土門裕之 林麻由美 渡邊由美子 (2020) 改訂 幼稚園教諭・保育士養成課程 幼児のための音楽教育 教育芸術社

